



秋の写生会

11月2日(木)に「わかばタイム」の一環として『秋の写生会』が開催されました。毎年、紅葉の季節を迎えると、若葉台東中は全校が豊かな色彩美で包み込まれます。眼前に広がる光景は、まさに錦秋といえます。そんな環境の中で暮らしていると、つい忘れがちなことですが、東中周辺を取り巻く環境は、都市部として実に恵まれた自然環境なのです。色彩が豊かであるということは、言い換えれば、樹木の種類が豊富だということです。多彩な種類が景色に反映されているのです。しかし、本年は気温が高めのせいか、まだ紅葉の盛りというには早いようでした。色彩に関してはこれからが本番といったところですので、色彩美の面は少々地味な光景ではありました。さて、写生会では、このような自然の豊かさを表現できたでしょうか。今号では、当日の様子を写真により紹介しておくことにします。写生の完成作品については、本通信上にて改めて掲載する予定ですので楽しみにお待ち下さい。



写生を通じて自らの目で風景を見つめ、描画しながら風景を感じ取る。この体験を通じて一人ひとりが何をつかみ取ってくれたでしょうか。若い感性で「若葉台の秋」を自らの心に焼き付けてくれる事を願いたいと思います。



千里の道も一歩から

11月6日の「わかばタイム」では、各わかばクラスにおいて様々な学習展開がなされました。キウィ棚の実をもいでいるクラス、露地栽培最後のトマトを収穫するクラス、シソジュースを味わうクラスetc。「わかばタイム」も半年経過し、各クラス独自の学習展開が定着し機能し始めました。この姿こそ「わかばタイム」が本来目指したものです。今後も各クラス独自の学習が展開されることで、学習の充実が期待されます。何事の進化にも、地道な努力が必須条件だということですね。